

バオヴィン・ディアリン両村における歴史文献調査の概要

岡 本 弘 道

A Summary Report of Investigation on Historical documents at Bao Vinh and Dia Linh

OKAMOTO Hiromichi

関西大学文化交渉学研究拠点のベトナム・フエフィールド調査において、その柱の一つに据えられたのが歴史文献の調査である。特にベトナムは本来漢字文化の国であったのが、近代以降のアルファベット表記の採用によって現在では漢字読解能力を持つ人材が極めて不足しているため、日本人研究者でも漢文史料の調査であれば貢献できる余地がある。また、調査地であるフエを中心としたベトナム中部地域では歴史文献の調査もまだ着手段階であり、それだけに有益と言える。本稿ではこのような観点から、2008年8月～9月、2009年8月～9月、2010年3月の3回に渡って筆者が担当した歴史文献調査の概要を紹介し、歴史文献調査の重要性を再確認するものである。

キーワード：歴史文献、明郷、家譜資料、中国系会館、祠堂

はじめに

関西大学文化交渉学教育研究拠点の周縁プロジェクトの一環として実施されたベトナム・フエにおけるフィールド調査では、フエ都城の北に位置するバオヴィン（褒栄）・ディアリン（地霊）両村を中心に、様々な視角からの現地調査が行われた。筆者はその中の「歴史文献班」の調査を担当し、多くの知見を得た。本稿では、その調査の概要について紹介したい。

1. 歴史文献調査の概要

関西大学文化交渉学研究拠点のベトナム・フエフィールド調査において、その柱の一つに据えられたのが歴史文献の調査である。特にベトナムは本来漢字文化の国であったのが、近代以降クオックグー（国語／Quốc Ngữ）と呼ばれるアルファベット表記が採用され、現在では漢字読解能力を持つ人材は数少

なくなっている。したがって、日本人研究者であっても（もちろん現地に関する知識は必要ではあるが）漢文史料であれば貢献する余地があるのである。また、調査地であるフェを中心としたベトナム中部地域では歴史文献の調査もまだ着手段階であり、このような調査を通じて今後の研究の進展に資するところは大きい。

以下、原則として時系列順に、筆者が担当した歴史文献調査の概要を示す。この歴史文献調査は、基本的にはCOEポスト・ドクトラル・フェロー（当時）の岡本を中心に、フィールド調査実習に参加した院生が日替わりで入れ替わりながら参加するというスタイルを取っている。また、2008年8月～9月の調査ではCOE特別研究員の佐藤実氏・篠原啓方氏、2009年8月～9月と2010年3月の補完調査においては同じくCOE特別研究員の井上充幸氏も随時調査に参加している。調査においては、調査地点での歴史文献資料の現存状況について確認の上、可能な限りデジタルカメラでの撮影を行うと共に、調査地点での聞き取り調査を重視し、また廟宇や祠堂・家祠などについてはその配置図も記録することとした。また、文献以外の文字資料についても注意を払い、デジタルカメラ・メモ等による記録を心がけた。調査メンバーの異動が激しいため、以下に調査の行動日程を示す中で、日毎に参加メンバーを敬称略で表記する。

2. 2008年8月～9月の歴史文献調査

初回の調査ではかつての中国系ベトナム人の集落とされる「明郷」（Minh Hương）社の実態解明を主要テーマとし、「明郷社」の南北に位置する天后宮・関聖殿（関帝廟）周辺の廟・祠堂を主な対象として調査を行った。また、「明郷社」の形成に関わる周辺集落の形成史に迫るために、ディアリンの祠堂・墓地などの調査も行った。

9月6日からの補完調査では、中国系住民が移転した場所とされるチーラン（Chí Lăng）通りを中心に、出身地毎に建てられた会館などを対象として調査を行った。

〈調査参加メンバー〉

岡本、佐藤実、篠原啓方、三宅美穂、鄭潔西、熊野弘子、王頂居

〈調査日程〉

8月29日（金）※午前：全員で「明郷」地区内の各所巡検
午後：天后宮で調査（メンバー：岡本、佐藤、篠原、三宅、鄭）
8月30日（土）午前：天后宮で調査
午後：関帝廟で調査（メンバー：岡本、佐藤、篠原、三宅、鄭）
8月31日（日）午前：「明郷」地区内の廟・祠堂の調査
午後：同上（メンバー：岡本、篠原、熊野、王）
9月1日（月）午前：恵南殿・阮氏祠堂調査（岡本・王）／関帝廟方位測定（篠原・熊野）
午後：阮氏祠堂調査（続）（岡本・鄭）／天后宮方位測定（篠原・熊野）

9月2日（火）※阮朝皇帝陵／フエ故宮の巡検

9月3日（水）午前：天后宮の再調査

午後：ディアリン（地霊）社墓地調査（メンバー：岡本、熊野、篠原、三宅）

9月4日（木）午前：ディアリン社墓地調査

（メンバー：岡本、熊野、篠原、三宅）

※午後～：全員でダナン巡検

9月5日（金）※全員でホイアン巡検

〈補完調査日程〉※以降、原則として岡本による追加調査

9月6日（土）午前：調査に参加した教員と共に、チーラン通りの中国系会館の巡検

※午後：篠原氏と阮朝皇帝陵の調査

9月7日（日）午前：ディアリンの亭（ディン）の調査

午後：チーラン通りの潮州会館・福建会館の調査

9月8日（月）午前：フエ都城内・Lê Tân 氏の家での調査

午後：ディアリンの亭にて地簿の調査

9月9日（火）午前：Lê Tân 氏の家での調査

午後：ディアリンの亭にて勅封文・地簿の調査

9月10日（水）午前：関聖寺（Phú Thọ 村）／チーラン通りの広州会館の調査

午後：ディアリンの亭にて地簿の調査

9月11日（木）午前：二つの海南会館（「瓊府会館」／「昭應廟」）の調査

午後：ディアリンの亭にて地簿の調査

a. 天后宮・関聖殿での調査

この回の調査で最初に実施した天后宮・関聖殿での調査については、既に調査報告が刊行されており¹⁾、詳細についてはそちらを参照されたい。文献資料としては経典・書籍等、祭文など、その他文字資料として扁額・ペナント、鐘・香炉等の銘文、対聯・位牌などを確認している²⁾。天后宮には雍正元年（1723）の年代が記載された磁器の香炉、乾隆四十五年（1780）の銘がある中国製の鉄製香炉があり、また関聖殿にも同じく乾隆四十五年（1780）銘の中国製鉄製香炉がある。天后宮殿前の鉄製香炉の銘文を以下に挙げておく。

廣東廣州府
宜義沐
恩衆信弟子

1) 野間晴雄・西村昌也・篠原啓方・佐藤 実・岡本弘道・木村 自・氷野善寛・熊野 建・Nguyễn Văn Đăng・Nguyễn Mạnh Hà「ヴェトナムのフエ旧外港集落の天后宮と関聖殿の調査基礎報告」『東アジア文化交渉研究』第2号、2009年。

2) 前掲註1論文、271-276頁。

黎日光 洪奕鼎
崔淑衡 伍協和
羅春仁 伍郷垣
呉恒豊 呉建祥
虔具龍亭壹座重
捌伯舫敬在
天后娘娘案前
永遠供奉
乾隆四十五年歲次
庚子孟春吉旦立
隆盛炉造



乾隆四十五年（1780）の銘を持つ天后
宮殿前鉄製香炉（篠原啓方氏撮影）

関聖殿の鉄製香炉の銘文も、重量を「柒佰舫」とし、「天后娘娘殿前」を「観音娘娘／関聖帝君殿前」とする以外は同文であり、恐らく両者は同時に発注され、運ばれてきたものと思われる。このことから、この2つの廟宇の歴史の長さ、そして中国との関係などをうかがうことができる。

b. 廟・亭・祠堂等の調査

清河（タインハー）亭、文明陳公廟、五行廟、城隍廟、地霊（ディアリン）亭、恵南殿、阮氏祠堂等では、扁額や位牌、堂内の配置などを中心に調査を行った。恵南殿では勅封文2点、地霊亭では勅封文3点を閲覧・撮影することができた。ただし特に地霊亭の勅封文は保存状況が劣悪で、一点については大破していて復元困難であり、この勅封文に関しては以前に記録されていたベトナム語音写のメモも併せて撮影している。

家譜資料については、ディアリンの阮氏祠堂において、『阮族世譜』等二種の漢文家譜と一種のベトナム語家譜の閲覧・撮影を行った。その他、中国系氏族の聞き取り調査を行っていた木村自氏の調査の過程で、『呉族家譜』『康氏家譜』の2点の家譜を収集することができた。

c. ディアリン墓地の調査

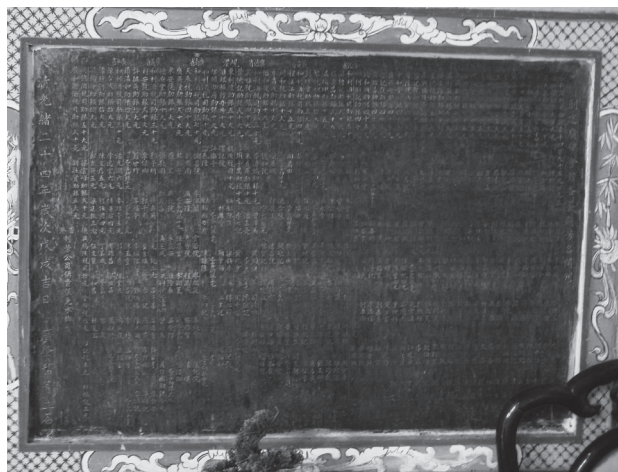
関聖殿からやや北に行くと、広大なディアリン村の墓地が広がっている。別の章で触れるディアリンの開耕神の墓³⁾をはじめ、かなり古いと思われる墓も点在しているとのことで、ディアリン墓地内の墓碑の調査も行った。古い墓であっても後に改葬して墓自体を新たに作り直すことが多いようであるが、それでも「啓定」の元号が刻まれた墓碑など、歴史的な由来を持つと覚しき墓をいくつか見つけることができた。

3) 拙稿「フェ郊外ディアリン村の形成と主要氏族の変遷——収集資料・文書資料および聞き取り調査を通じて——」参照。

d. チーラン通りの会館等の調査

天后宮・関聖殿での調査の段階から、中国系の人々はチーラン通りに移住しているという話を聞いていたことから、本隊帰国後の補完調査ではチーラン通り沿いの中国系会館を中心に調査を行った。フエ都城の東側、ザーホイ（Gia Hoi）橋を渡って北へ向かうと、昭応祠（海南会館）、広州会館（広肇会館）、福建会館、瓊府会館、潮州会館などの中国系会館が左手に並んでいる。これらの会館は海外からの送金等を受けており、天后や関帝など中国系の神を祭っている。その沿革は概ね19世紀まで遡るようであるが、残念ながらどの会館でも事情に詳しい人物からの聞き取り調査を行うことはできず、また所蔵文献資料についても十分な情報を得ることはできなかった。

また、フエ都城城外東辺の水路沿いにある、Phú Thọ 村の「関聖寺」にも訪問し、内部の配置と所蔵文書についての調査を行った。ここでは祭文と共に、保存状態は悪いものの勅封文3件を閲覧・撮影することができた。



広州会館・創建廣肇會館芳名碑（光緒24年）



福建会館・嗣徳二十七年（1874）に会館を重建した際の芳名碑



瓊府会館・同治戊辰年（七年・1868）の扁額

3. 2009年8月～9月の歴史文献調査

2回目となるこの回の調査では、19世紀後半以降商業地域として発展したとされるバオヴィンを主な調査対象地域としつつ、その北に隣接するディアリンも含めて、主要氏族の家譜資料調査及び聞き取り調査を主に行った。

また、9月8日・9日の補完調査においては、バオヴィンの阮族十二尊族の形成に関連した調査を行った。

〈調査参加メンバー〉

岡本、井上充幸、川端歩、海曉芳、松井真希子、董科、伊藤瞳、馮赫陽、鄭英實

〈調査日程〉

- 8月31日（月） ※午前：初参加者を中心に、調査地区内の各所巡検
午後：地霊・霊和廟（大工の神の廟）と Trần Văn Tuấn 氏宅の家祠調査
（メンバー：岡本、井上、川端、海）
- 9月1日（火） 午前：褒栄・呉福族祠堂、及び Ngô Đình Kỳ 氏宅の家祠調査
午後：地霊・黎文氏祠堂での調査
（メンバー：岡本、井上、松井、董）
- ※夜：西村氏・篠原氏と范氏宅における文献史料収集
- 9月2日（水） ※篠原氏の調査に同行し、阮朝／広南阮氏期の各種墓地調査
- 9月3日（木） 午前：褒栄・阮文氏祠堂の調査
午後：同上／褒栄・陳氏祠堂の調査
（メンバー：岡本、井上、伊藤、馮）
- 9月4日（金） 午前：褒栄亭の秋祭りの調査／褒栄・潘氏宅の家祠調査
午後：褒栄・黎氏祠堂／褒栄・Nguyễn Mung 氏宅の家祠及び阮氏祠堂の調査
- 9月5日（土）・6日（日） ※国際シンポジウム開催
- 9月7日（月） 午前：地霊・永春寺及び寺院2階奥の范氏等家祠の調査
（メンバー：岡本、井上、伊藤、鄭英實）
- ※午後：成果報告会→本隊は帰国

〈補完調査日程〉 ※以降、基本的には岡本のみによる調査

- 9月8日（火） 午前：褒栄・黎氏祠堂、褒栄・鄧族家祠および阮族拾貳尊族祠堂の調査
午後：褒栄・黎族祠堂の追加調査／褒栄社墓地の范氏墓地・祠堂の調査
- 9月9日（水） 午前：褒栄亭・開耕廟の調査／褒栄の各 Xóm（村落の下位行政単位）のアムの調査
「前母廟」「聖母殿」および市場内のアム
+ 西村氏と明郷・天后宮南隣の洪氏宅で家譜等の文献史料収集

a. 主要氏族の祠堂・家祠における家譜資料調査

昨年度の調査結果を受けて、この回の調査では「明郷」に関わる中国系ベトナム人よりもむしろバオヴィン・ディアリンにおける主要氏族の調査に重点を置き、調査可能な氏族から順次家譜と氏族の歴史を中心とした聞き取り調査を行った。バオヴィンでは開耕三族とされる呉族・范族・黎族、および「阮氏十二尊族」と称される主要氏族の内、Nguyễn Văn Tu 氏の阮文族、Nguyễn Mung 氏の阮族、陳族、鄧族、黎族の調査を行い、Nguyễn Mung 氏の阮族と陳族を除く各氏族の家譜を閲覧・撮影することができた。また、ディアリンでは「六大族」と呼ばれる主要氏族のうち、黎文族と陳葉族の調査を行い、家譜および関連所蔵文献を閲覧・撮影することができた。特に陳葉族の調査では、隣接する大工の神を祀る霊和祠の勅封状なども閲覧することができた。

また、鄧族の調査では、ベトナム語の家譜とともに、バオヴィンにおける「阮族十二尊族」という新興主要氏族にかかわる文献資料を閲覧・撮影したが、これはバオヴィンにおける村内主要氏族の枠組みの変化という、新たな問題意識に繋がる重要な資料であった。

b. バオヴィン亭および近隣の廟・祠堂・アム等の調査

バオヴィンの亭では、9月4日に祭祀を行うということで、その様子を調査すると共に、亭内の配置、バオヴィン亭に祀られている高閣神・飛雲將軍などに発給された勅封状や祭文を閲覧・撮影することができた。バオヴィン亭での祭祀は簡素なものであったが、現在では開耕三族よりもむしろ阮族十二尊族の構成員が中心となって運営しており、また阮族十二尊族に限らないオープンな祭祀運営を行っているということであった。

バオヴィン内には、その他北東の天江寺や、五行廟・靈感廟などの小さなアムがあり、これらについても所在・位牌・扁額等について調査を行った。

4. 2010年3月の歴史文献補完調査

上記の2回の調査の結果を踏まえ、バオヴィンとディアリンの村落形成の歴史を理解する上でさらに調査すべき対象について、2010年3月に追加の調査を行い、調査データを補完した。なお、この回の調査における歴史文献調査の参加メンバーは、岡本および井上充幸氏である。

この回の補完調査では、バオヴィン・ディアリンにおいて未調査の主要氏族の家譜資料の調査、聞き取り調査を最優先課題として行った。また関連する重要な調査対象として、フエから距離を隔てているためにこれまで調査することができなかった、バオヴィンの分村と称される褒栄下社と、明郷の分村と称される明郷邑（Ấp Minh Hương）への調査も行った。

〈調査日程〉

3月22日（月） 午前・午後：フエ都城西側の万春（Vạn Xuân）村での調査（岡本）

3月23日（火） 午前：バオヴィン北部のアム・天江寺の調査

午後：ディアリンの黎福族の家譜調査（岡本・井上）

- 3月24日（水） 午前：ディアリンの李族の家譜調査
午後：ディアリンの黄族の家譜調査（岡本）
※井上氏は褒栄下社での調査に同行
- 3月25日（木） 午前：ディアリンの黎有族の家譜調査
午後：ディアリンの張族の家譜調査（岡本・井上）
- 3月26日（金） 午前：バオヴィンの阮族・Nguyễn Mung 氏からの聞き取り調査
午後：バオヴィン・ディアリン両村でのこれまでの地点の再確認
- 3月27日（土） 午前：ディアリン墓地の調査／バオヴィン村長からの聞き取り調査
午後：バオヴィンの阮族・Nguyễn Ha 氏からの聞き取り調査／
テーライの武族の家譜調査・聞き取り調査／
バオヴィンの黄玉族の家譜調査（岡本・井上）
- 3月28日（日） 午前：バオヴィンの阮族・Nguyễn Hà 氏からの聞き取り調査
午後：バオヴィンの黎族・Lê Dan 氏からの聞き取り調査／
テーライの阮族・Nguyễn Văn Hoành 氏からの聞き取り調査（岡本・井上）
- 3月29日（月） 午前・午後：西村氏と共に明郷邑（Ấp Minh Hương）での調査（岡本）
- 3月30日（火） ※午前：データ整理作業
午後：バオヴィンの鄧族・Đặng Huỳnh Tâm 氏からの聞き取り調査（岡本・井上）

a. 主要氏族の祠堂・家祠における家譜資料調査

この補完調査ではこれまでの、特に前回の歴史文献調査で主要な調査対象としたバオヴィン・ディアリンの主要氏族の家譜資料調査の内、未調査の氏族、あるいは諸事情で閲覧することができなかった氏族の家譜資料の再調査を優先して行った。その結果が以下の表である。

バオヴィンの主要氏族については、開耕三族の家譜こそ収集できているものの、阮族十二尊族についてはほんの一部の家譜しか収集できていない。また、族長欄に名前の記載がない氏族については、調査自体行うことができなかったことを示す。バオヴィンから別の地域へ移住している氏族や情報自体得られなかった氏族も少なくなく、それだけ人の出入りの激しいバオヴィンならではの状況を物語る結果と言える。一方ディアリンの主要氏族については基本的に全ての氏族について調査を行い、家譜についても収集することができた。もちろんディアリンの主要氏族の中にも外部へ移住した氏族は存在するものの、隣接する村でこれほど状況が対照的というのも興味深い。

b. 褒栄下社／明郷邑（Ấp Minh Hương）における調査

この回の補完調査では、3月24日に褒栄下社、29日に明郷邑という、フエから離れた地域での調査も行っている。褒栄下社はバオヴィンの開耕氏族がバオヴィンでの開耕の後新たに開いた村ということで、西村昌也氏・井上充幸氏が調査に赴いた。この褒栄下社とバオヴィン（上社）との関係は必ずしも良好というわけではないようであるが、家譜・勅封状をはじめ相当数の文献資料が補完されており、村とし

バオヴィン・ディアリン両村における歴史文献調査の概要（岡本）

バオヴィン・ディアリンにおける主要氏族の聞き取り調査・家譜資料調査の実施状況⁴⁾

○ Bao Vinh の開耕三族					
氏族名	家譜収集	族長（*は聞き取った相手）	世代数	調査日	注記
呉（呉廷）	○	* Ngô Đình Kỳ (50)	?	09/9/1 午前	世代数聞き取り忘れ
范	○	* Phạm Quyền (50)	16世	09/9/2 夜	
黎	○	* Lê Phan (51)	12世	09/9/4 午後	

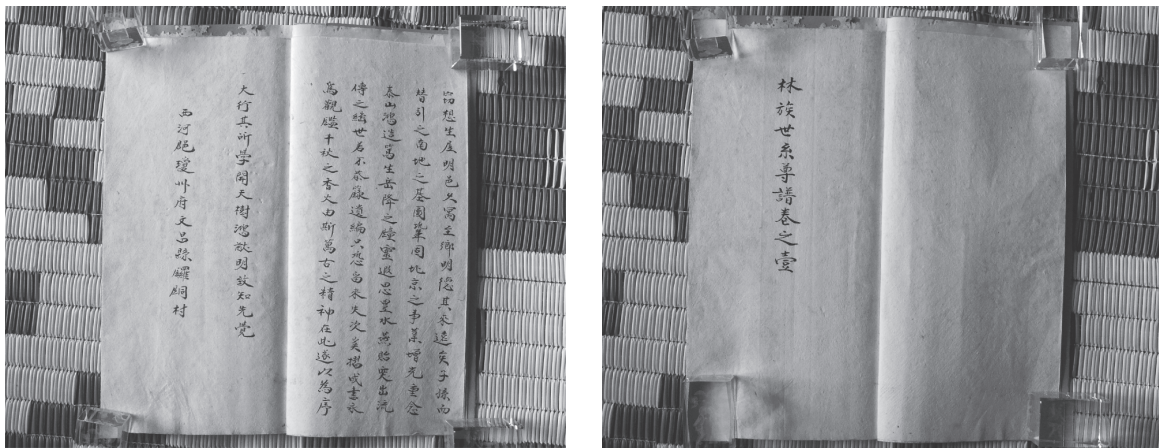
○ Bao Vinh の阮族十二尊族					
氏族名	家譜収集	族長（*は聞き取った相手）	世代数	調査日	注記
阮	△	Nguyễn Hà (70)	7 世	10/3/27 午後	家譜は搜索中
阮（阮文）	○	* Nguyễn Văn Tu (76)	6 世 ?	09/9/3 午前・午後	現族長は Nguyễn Trong Anh
武	○	* Võ Hồng (59)	7 世	10/3/27 午後	テーライ在住
陳	×	* Trần Thắng (64)	?	09/9/3 午後	家譜なし・世代数不明
陳	×	—	—	—	現在はニャチャン在住
鄧	○	* Đặng Hiến (76)	?	09/9/8 午前	世代数聞き取り忘れ
黎	○	Lê Dân (60)	5 世	09/9/8 午後	
阮（Xung）	×	—	—	—	女子供のみ、昼不在
阮（Mung）	△	Nguyễn Mung (86)	7 世	09/9/4 午後	家譜はハノイの親族が保管
阮（Hoành）	×	Nguyễn Văn Hoành (76)	8 世	10/3/28 午後	家譜焼失
潘	×	—	—	—	
杜	×	—	—	—	
丁	×	—	—	—	
魏	×	—	—	—	

○ Địa Linh の六大族					
氏族名	家譜収集	族長（*は聞き取った相手）	世代数	調査日	注記
黎福	○	* Lê Phước Thông (56)	12世	10/3/23 午後	
黎文	○	Lê Văn Đan (77)	7 世	09/9/1 午後	
黎有	○	* Lê Hữu Hoàng (69)	8 世	10/3/25 午前	
阮	○	Nguyễn Văn Hiến (1939生)		08/9/1 午後	
陳葉	○	* Trần Văn Tuấn (61)	8 世	09/8/31 午後	
張	○	Trương Văn Gai (76)	4 世	10/3/25 午後	
李	○	Lý Văn Ngo (70)	?	10/3/24 午前	世代数聞き取り忘れ
黄	○	Hoàng Văn Thông (79)	11世	10/3/24 午後	

○ Bao Vinh の鍛冶屋					
氏族名	家譜収集	族 長	世代数	調査日	注記
黄玉	△	Hoàng Ngọc Thuoc (81)	16世	10/3/27 午後	ベトナム語家譜 1 冊未撮影

ての歴史もバオヴィン（上社）とはほぼ同時期の15世紀後半まで遡ることができるとのことであった。

4) 家譜収集欄の○はベトナム語家譜を含め一部でも収集できたもの、△は収集の可能性はあるが未収集のもの、×は散逸等のため収集不可能なものを指す。また本表は、岡本弘道・井上充幸が作成し、それに西村昌也が修補を加えたものである。

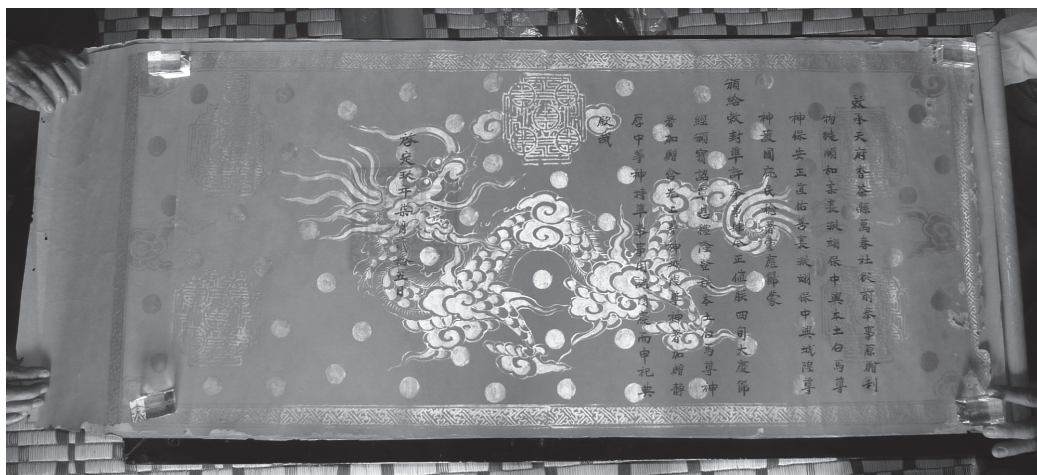


明郷邑・林族の家譜『林族世系尊譜』の扉（右）および序文（左）

一方、明郷邑については西村氏と岡本が調査を行ったが、フエ近郊の中国系ベトナム人の村落「明郷社」の分村というわけではなく、明郷社の中興の祖である陳踐誠との縁で行政的に明郷社に編入してもらったということであった。中国系ベトナム人も、林 [Lâm] 族だけで、特に村人が中国系というわけではないという。明郷社と明郷邑との歴史的関係についての聞き取り調査を行うと共に、村の亭、および林族・黎日族の調査を行い、家譜等の文献資料を収集することができた。

c. 万春 (Vạn Xuân) 村での調査

3月22日にはフエ都城の西辺に位置する万春村の万善寺において、大量の勅封文および関連文書の閲覧・撮影を行った。ここでは同一の神に対して年次の異なる勅封文を多数保管しており、また勅封文の形状をしているが朱印が押されていないもの、礼部の文書控と覚しき文書など、勅封文の発行に関わる様々な形態の文書をまとめて閲覧することができた。これらの文書群は勅封文発給の文書システムを理解する上で非常に貴重なものであると思われる、今後の研究の進展が期待される。



啓定9年(1924)7月25日付の、本土白馬・城隍の勅封状

むすびにかえて

以上、非常に粗い内容ながら、フエ地域における歴史文献調査の概要を紹介した。当初は中国系ベトナム人の集落「明郷社」の変遷史を中心に、フエと外部世界との経済的、もしくは文化的なネットワークを射程に入れつつスタートした本調査は、近隣のバオヴィン・ディアリン両村を調査地域に加えていく中で、収集史料や問題意識を質量共に拡大させていくこととなった。歴史的にも国家の境界地域としてのフロンティアから阮朝の首都としての発展を経て現在に至るフエの地域性から学ぶべき点は少なくない。本調査の過程の中で、バオヴィン・ディアリン両村を中心として地域に密着した、まとまった量の歴史文献を確認することができた。これら多くの歴史文献資料は、今後の研究のますますの発展に寄与することであろう。

